



学校から地球の未来へ 5つのアイデア

アイデア② 継続は力なり！ エッセイコンテストの真価に迫る

2023年度 6月号

2023年度 JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテストの作品募集が始まりました！このエッセイコンテストは、中学生や高校生が開発途上国の現状や日本との関係について理解を深め、自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることを目的として実施しています。今回は、毎年エッセイコンテストに応募している岡山県立総社南高等学校の吉川真由美先生に、エッセイを書くことによる生徒たちの変容や、生徒がエッセイに取り組むための工夫についてお聞きしました。

学校紹介

岡山県立総社南高等学校は、JICA国際協力エッセイコンテストに継続して応募しています。これまでに優秀賞や国内機関賞、特別学校賞を受賞しました。※毎年、1年生にエッセイを夏休みの課題としています。また、エッセイコンテストに限らず、さまざまなJICA主催のプログラムにも参加しています。

※学校賞：60作品以上の応募、または全校生徒の3割以上の応募があった学校。
特別学校賞：学校賞を長年に渡り連続して受賞し、多数の応募をしてきた学校。

Q1.エッセイコンテストには、どれくらい前から継続して参加しているのですか？

私が赴任した15年前には既に、毎年取り組むべきものとしてありました。このように長い間続いている理由は、**全教員がその必要性を感じていて、誰もが良い課題だと考えているから**だと思います。



ヒント

←総社南高校では、各種表彰を受賞した生徒について、「表彰伝達式」で、全校生徒の前で受賞報告をしています。自分が頑張ったことを全校生徒の前で讃えられる機会は、生徒たちのモチベーションにつながり、エッセイコンテストに取り組む励みになっていると思います。

Q2.エッセイに取り組むことで、生徒たちにどのような変化がありましたか？印象に残っているケースがあれば教えてください。

自分と世界のつながりを考える機会は普段あまりないかもしれませんが、今の時代、世界とのつながりが全くないということは有り得ないですね。生徒たちは、たとえ海外に行った経験がなくても、きっかけがあれば、世界とつながる身近な題材を自ら見つけることができるのです。**何気ない日常の中で、世界とつながっている自分について考えるきっかけになるのが、このエッセイコンテストの意義**だと思います。

過去に優秀賞を取った生徒のエピソードを紹介します。その生徒は、英語や国際を中心に学ぶ国際系ではなく、美術を専門的に学ぶ美術工芸系の所属でした。自分の絵が展示されている会場に、たまたま世界の子どもたちの絵が展示されていて、その中でも発展途上国の子どもたちの色彩豊かな明るい絵に衝撃を受けました。そして、それを題材としてエッセイを書いたのです。**世界とのつながりは、見方次第でどこにもある**、と私も感心しました。

その生徒がコンテストの副賞である海外研修の事前研修の後、「先生、私だけ英語が喋れなかった…」と帰ってきました。それまで英語に特段興味があったわけではなかった彼女はそれがきっかけで英語を勉強しようという気持ちが高まりました。自分がそれまでにやってきたことや自分の思いを英語でスピーチしようと、熱心に原稿を書きました。海外研修に参加した後、校内で堂々とプレゼンをし、**大きな自信を持つことができました。**

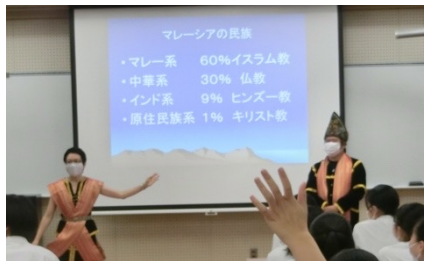


↑総社南高等学校 国際系主任
吉川 真由美 先生

Q3.生徒がエッセイに向き合うための工夫はされていますか？

エッセイコンテストのテーマは、時には生徒によっては身近に感じなかったり、イメージがつきにくかったりすることがあります。「地球」「未来」「世界」など、生徒自身にとっては大きなテーマであるからです。こういったテーマを身近に感じてもらうために、まずは過去の入賞作品を例として読ませています。また、昨年度からは「[エッセイ書き方ワークシート](#)」も活用しています。これは段階的に取り組むことができるツールなので、文章を書くのが苦手な生徒でも取り組みやすく、非常に有益でした。

Q4. 他のJICAプログラムをどのように活用されていますか？



2年生の生徒向けには、毎年JICA海外協力隊経験者の方をお招きして、体験談の時間を設けています(国際協力出前講座)。また、国際系3年生の生徒たち数名が、毎年JICA中国が主催する「[高校生国際協力体験プログラム](#)」に参加しています。

このように学校全体で、継続的にJICAのコンテンツを活用し、国際理解教育を実施しています。JICAのさまざまなプログラムを活用して世界について知る機会を得ることで、**世界と自分とのつながりについて考え、自分の生き方について考える貴重な機会になっています。**



Q5.エッセイコンテストに取り組もうと考えている全国の先生方にメッセージをお願いします。

自分と世界とのつながりって、何気ない生活の中にいくらかでも散らばっているのですが、なんとなく日々を過ごしているとなかなか気が付かないものです。それらに気付くきっかけは、できるだけ多い方が良いはずですが、私たち教師ができることは、**そのきっかけをひとりでも多くの生徒たちに提供することではないでしょうか。**

エッセイコンテストは、世界と自分とのつながりについて考えるとてもいい機会です。世界が抱えるさまざまな課題をジブンゴトとして捉え、自分には何ができるかを考えるきっかけを生徒たちに提供し、共により良い世界をつくっていきましょう。

2023年度エッセイコンテスト 作品募集中!



テーマ



地球に生きる私たちー未来へつなげるためにー

地球に生きる私たちにとって、「何を」未来をつなげていくことが大切なのではないでしょうか。そして、そこにはどういった課題があり、私たち一人ひとりができることは何でしょうか。是非、皆さんの身近なところから、大切なものを未来へつなげるために自分ができることを見つけてみてください。

募集期間

2023年6月7日(水)～
2023年9月13日(水)

応募締切

2023年9月13日(水) **必着**

今年度よりウェブ応募を開始しました！ぜひご活用ください。

ウェブ応募は[こちら](#)

(注)ウェブ応募にはメールアドレスが必須となります。**郵送応募とウェブ応募の併用はできません。**

「地球に生きる私たち
～未来へつなげるために～」
約1週間の海外研修
約13日
応募された方全員へ参加賞を差し上げます

2023年度募集案内についての詳細は[こちら](#)

エッセイを書くことは、身近な生活の中から自分と世界とのつながりを考えることができる貴重な機会です。総社南高校では、学校全体にその価値が自然な形で受け継がれているように感じました。世界とのつながりを考え、大切なものを未来へつなげるために行動することは、世界の課題解決にもつながる一歩となるのではないのでしょうか。ぜひ学校で取り組んでみてください！